

海野隆議会報告

子どもたちの未来に責任を持とう

〒300-1152 阿見町荒川本郷 1343 番地 197

携帯： 090-1548-5294

sougousenryaku@gmail.com

海野 阿見で検索 VOL3-04



観光ガイドとして町内を案内する

新型コロナ禍も、ロシアによるウクライナ侵略も、北朝鮮によるミサイル発射も、日本社会の衰退も、事態が改善する様子はありません。しばらく先の見えない時代を手探りで生きて行く他はないと思われまます。阿見町は4月中にも人口5万人を超えることが確実な情勢です。市制施行にふさわしい議会、行政の体制をしっかりとつくりなければなりません。

議員は、喋ってなんぼの商売です。アンテナを広くして、町民の立場になって考え、弱い立場の方々に寄り添い、生活の向上につながる政策の実現に全力を尽くします。ご連絡いただければ、どのような問題でも、どこにでも伺います。

◆私の経歴・那珂市編

◆私は県内の那珂市（旧那珂町）に2人兄弟の弟として生まれ育ち、地元の中学校を卒業し県立水戸一高を経て、京都にある立命館大学産業社会学部を卒業しました。卒業後は、茨城県労働金庫（現中央労働金庫）に就職、約9年勤務し、帝国データバンク水戸支店に転職しました。若い頃から政治に関心があり1年後の33歳の時に那珂町議会議員に当選しました。37歳の時には町長選挙に立候補しましたが落選しました。

◆その頃には3人の子供がいたので、友人が院長だった、医療法人の事務長として就職することにしました。事務長の仕事は、院長代理としての対外的事項、人事や採用、医療保険の請求などさまざまな仕事を統括するもので人生の幅が広がりました。事務長の仕事は、町議会議員に復帰してから県議会議員に当選するまで8年間続けました。友人には感謝しています。

◆45歳の時に茨城県議会議員に当選しましたが、2期目の選挙で落選し49歳で新たな人生を歩むことになりました。

◆その後、別の医療法人の事務長や福祉施設役員として、特別養護老人ホームや認知症対応グループホームの設立、開発計画コンサルタント会社を経て、日本検査キューエイ株式会社に所属し国際規格であるISO品質&環境主任審査員として、全国各地で審査業務を行いました。

◆私の経歴・阿見町編

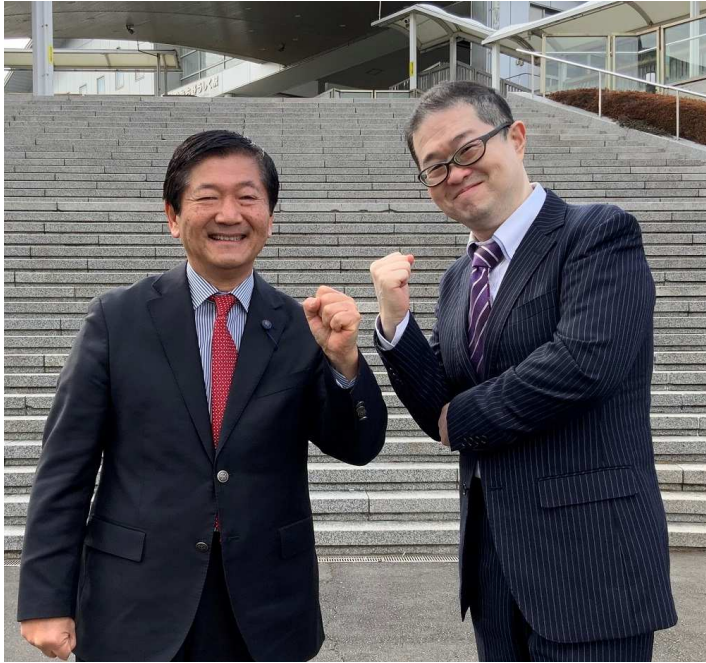
◆阿見町との縁は深く、もともと同規模人口を擁する旧那珂町の議員として交流がありました。元町長が町長選挙に挑戦する際に、政策をアドバイスしたこともあり、当選後は参与（日給月給制）として行政内部に入り仕事をしました。構想日本の「事業仕分け」などは実施できましたが、当時の議会の理解を得られなかったことで、十分な成果に至らなかったことは誠に残念でした。

◆この時のやり残しが、私が阿見町議会議員に立候補した最大の理由です。兄が那珂市長となり阿見町参与としての経験も併せて、政策形成と実施過程をつぶさに観察体験できたことは、長い地方自治体議員の中でもきわめて貴重な経験でした。

◆阿見町議会議員として、産業建設常任委員長や総務常任委員長、予算・決算特別委員長、議会改革特別委員などを経験しています。また、町民の意見や要望などに丁寧に耳を傾け、議会を通じて行政に働きかけ実現に努力してきました。すべての議会で一般質問・質疑を行っている他、ホームページやブログなどで議員活動を発信しています。これからも「NO1議員」として活動します。

◆議会外では、日本地域資源学会理事、国際交流協会、阿見観光ガイドなどで活動中です。

れいわ新選組牛久市政策委員 いでさわ大さんと地方自 治を語る



海野：いでさわ大さん、お久しぶりです。4月の牛久市議会議員選挙にれいわ新選組から立候補を予定されているんですね。いでさわさんのお仕事は運転代行業ということですが、コロナの影響を大きく受けましたね。

いでさわ大：昨年の決算はまだ出ていませんが、2年間で5千万の売上減なので、たぶん3年間で6千~7千万ほどの売上減となってしまいう予想です。少しずつ回復はしています。

海野：大きな病気をされて現在もリハビリ中だと伺いましたが、いかがですか。

いでさわ大：脳出血で倒れたあと、半年間入院し退院しました。車椅子無しには生活できず家では風呂すら入れないのではないかと物凄い不安でしたが、後輩の運営する阿見町のデイサービスに週5日通い、途中悪性リンパ腫の抗がん剤治療の為の半年間の治療期間を除いた実質一年半後に車椅子から離脱できました。要介護1や2の人は、僕のようにまた歩けるようになる人が多くいる枠です。ここを見捨ててしまったら社会復帰できるはずの人達が自己責任のみを負わされてしまいます。社会復帰してもらい仕事にも就けるよう支援する事こそが国や自治体が行うべき事だと思います。

海野：政治に関心を持たれたのはどのようなことからですか。

いでさわ大：僕のように社会復帰できた人を評価するシステムが無い事も大きな問題です。要介護度が下がったらその施設にはインセンティブを与えてほしいのです。後輩の施設は色々と試行錯誤を繰り返し、努力

しています。僕も利用者の、障害者の立場からアドバイスもしました。病気をして多くの物を失い、心に大きな穴が空き不自由な身体を抱え、生きる目的を失いかけていた僕のモチベーションは政治への怒りと、その政治への参画への思いでした。健康な時と同じような生き方が出来ずに悩み苦しむ中で、政治について知り、学び、アウトプットする事は僕にとって生活の一部となっていました。日々政治に関わりたいと考えている中で、結婚後に住み暮らし、おそらく死ぬまでお世話になるであろう牛久の為に働けないかと今年の頭くらいから考えていました。

海野：れいわ新選組から立候補しようと思いついたのは、どのような動機でしたか。

いでさわ大：2021年に無謀にもれいわ新選組の衆院選に応募してからも政治への思いが萎む事はありませんでした。そのような時、昨年10月末に山本太郎代表からお声をかけていただきました。代表の演説をリハビリ入院中のベッドの上で涙ながらに聞いていたので、とても光栄でした。本気で市議会議員となり市民の皆様と協力して課題の解決に取り組みたい、牛久にれいわ新選組の拠点をつくりたいとの思いに至りました。

海野：二所ノ関部屋は阿見町とは言っても、お住まいのひたち野うしくと隣接しています。阿見町とはいろいろな協力が出来そうです。期待しています。政治を志す時に大事なことは「動機」です。自らの生活や経営という身近な問題から発して、地域全体のことや市民全体のことに想いが及ぶという人物は、政治を担うのに相応しいと思います。私は全力で応援します。



無料法律・生活相談

町政のこと・地域や家庭での日常生活上の問題・法律に関わる問題に遭遇して解決できずに悩んでいる方の相談に応じます。弁護士による相談は予約が必要です。